

平成 30 年度

人間生活学総合研究科教授内容

修士課程・博士課程共通科目

東京家政大学大学院

30 修士課程・博士課程共通科目

(8) 大学院共通科目(修士課程・博士課程)

区分	授 業 科 目	単位数	必選別	担 当 教 員	備考 (シラバスページ)
共 通 分 野	論文作成のための統計解析入門	2	選	教 授 井 上 俊 哉 客員教授 西 村 純 一	P1
	プレゼンテーション論	2	選	教 授 松 木 孝 幸	P2
	アカデミック・ライティング	2	選	教 授 小 泉 仁 講 師 トム・エドワーズ 講 師 ロバート・ジェイムス・ロウ	P3

30 修士課程・博士課程共通科目

授業科目名：論文作成のための統計解析入門	単位数：2単位	担当教員名：井上俊哉・西村純一 オムニバス
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>論文作成に必要な統計解析についてサーチワークの基礎として学ぶ。とくに、推測統計と多変量解析の諸手法を理解し、論文作成にあたって、それらを適切に用いる力をつけることが授業の到達目標である。</p>		
<p>授業の概要</p> <p>t検定、分散分析、回帰分析、因子分析など、研究で多用される代表的な統計解析手法を学ぶ。統計解析のためのコンピューターソフトウェアSPSSの利用法についても取り上げる。</p>		
<p>授業計画</p> <p>第1回：記述統計について</p> <p>第2回：推測統計について</p> <p>第3回：独立な2群の平均値差の検定</p> <p>第4回：対応のある2群の平均値差の検定</p> <p>第5回：カテゴリ変数間の連関の分析</p> <p>第6回：分散分析（1）完全無作為1要因デザイン</p> <p>第7回：分散分析（2）完全無作為2要因デザイン</p> <p>第8回：分散分析（3）主効果と交互作用効果</p> <p>第9回：分散分析（4）対応あるデザイン</p> <p>第10回：相関と回帰</p> <p>第11回：重回帰分析</p> <p>第12回：主成分分析</p> <p>第13回：因子分析（1）</p> <p>第14回：因子分析（2）</p> <p>第15回：クラスタ分析</p>		
<p>準備学習（予習・復習等）</p> <p>テキストによる予習1時間、復習としてノート整理1時間</p>		
<p>テキスト</p> <p>「SPSS統計解析マニュアル」</p>		
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「多変量データ解析法—心理・教育・社会系のための入門」「これから心理学を学ぶ人のための研究法と統計法」ナカニシヤ出版</p>		
<p>学生に対する評価 データ処理実習の参加と理解度</p>		

30 修士課程・博士課程共通科目

授業科目名：プレゼンテーション論	単位数：2単位	担当教員名：松木孝幸
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>自分の研究内容を第三者に分かるように話ができ、表現できるようにする。 また、発表機器、ソフトウェアの使い方も学ぶ。</p>		
<p>授業の概要</p> <p>大学院の細分化された各領域で、各人が行っている研究内容は異分野の人達には理解し難い。しかし、最近では研究内容を第三者にも分かるように説明することが文書でも口頭でも求められている。この授業では、大学院生の研究内容を簡潔に表現（文書と口頭）することを学習する。なお前半では、発表機器およびソフトウェアの概要について学ぶ。</p>		
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：公開されている情報の紹介（SlideShare、Prezi等）</p> <p>第3回：有名な論文の概要の説明／各学生の実践・講評</p> <p>第4回：分かりやすい概要の例／各学生の実践・講評</p> <p>第5回：分かりやすい話の例／各学生の実践・講評（1）</p> <p>第6回：分かりやすい話の例／各学生の実践・講評（2）</p> <p>第7回：学生の実践に対する学生による批評</p> <p>第8回：研究内容の発信（ガイダンス）</p> <p>第9回：書面等を用いた表現・発表方法</p> <p>第10回：プレゼンテーションソフトの機能と作成・操作法</p> <p>第11回：プレゼンテーションソフトによる表現法・発表法（1）</p> <p>第12回：プレゼンテーションソフトによる表現法・発表法（2）</p> <p>第13回：動画・静止画による表現法・発表法</p> <p>第14回：HTMLを用いた表現法・発表法</p> <p>第15回：まとめと解説</p>		
<p>準備学習（予習・復習等）： 授業で示される例題を見習い、適当な課題で作成することが望ましい。</p>		
<p>テキスト： ハンドアウト</p>		
<p>参考書・参考資料等： 特になし</p>		
<p>学生に対する評価： 平常点と課題</p>		

30 修士課程・博士課程共通科目

授業科目名：アカデミック・ライティング	単位数：2単位	担当教員名：小泉仁、トム・エドワーズ、ロバート・ジェイムス・ロウ オムニバス
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語と英語の文章構成の違いを学び、自分の英語で論理的な文章が書けるようにする。 ・個々の専門分野の英語学術論文で使われている論文のスタイル、註、参考文献の書き方などについて学び、英語での研究活動のための力をつける。 		
<p>授業の概要</p> <p>講義：論理的な英文の書き方の基本的なルールを学び、そのルールに則した英文が書けるようにする。学術的な英語の文章の構成や表現を知る。</p> <p>添削：講義で学んだことを踏まえて制作した文書について、ネイティブ教員の添削及び指導を受け、英語力を高める。</p>		
<p>授業計画</p> <p>講義部分：</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：日本語と英語の文章構成の違い</p> <p>第3回：パラグラフ・リーディングの基礎</p> <p>第4回：パラグラフ・リーディングの実践 引用・註の方式について</p> <p>第5回：パラグラフ・ライティングの基礎</p> <p>第6回：パラグラフ・ライティングの実践 自分の研究内容について、簡単に人に伝えてみよう</p> <p>第7回：課題レポート制作</p> <p>実践部分：</p> <p>第8回～第15回：ネイティブ教員とアポイントメントを取り、課題レポート もしくはその他添削を受けたい文書について、指導を受ける。</p>		
<p>準備学習（予習・復習等）</p> <p>英語論文およびパラグラフライティングについての知識は前提としないが、何か具体的に英語を使って読み書きする目標（論文およびアブストラクト制作、学会発表など）があることが望ましい。</p>		
<p>テキスト</p> <p>教員がプリント教材を作成</p>		
<p>参考書・参考資料等</p> <p><i>Q: Skills for Success</i> (Oxford University Press) 他パラグラフ・ライティング教材</p>		